

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年 1月30日

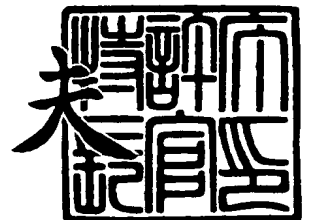
出願番号  
Application Number: 特願2003-060659  
[ST. 10/C]: [JP2003-060659]

出願人  
Applicant(s): 松本 幸男

2003年 9月26日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3079485

【書類名】 特許願

【整理番号】 PMH15-0001

【提出日】 平成8011年99月99日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【発明の名称】 酵素活性作用補助剤

【請求項の数】 3

【発明者】

【住所又は居所】 東京都足立区竹ノ塚 5 - 1 - 1 8 ワイエスビル 3 0  
1

【氏名】 松本 幸男

【特許出願人】

【住所又は居所】 東京都足立区竹ノ塚 5 - 1 - 1 8 ワイエスビル 3 0  
1

【氏名又は名称】 松本 幸男

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 酵素活性作用補助剤

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少量の無機質物を含む一般式  $[C_a H_b O_c N_d P_e S_f]$  (但し  $a \sim f$  は正数を表す) の有機物、有機化合物を、自然界に存在する微生物群、粘土触媒、酵素及び水を加えた媒体と常圧下に接触させ、嫌気的環境から好気的環境を経て酸化還元反応を推進させて取得した必須アミノ酸を含む多種のアミノ酸と多種の特異的金属陽イオンとを含有した酵素活性作用補助剤。

【請求項 2】 上記有機物、有機化合物がバイオマスである事を特徴とする請求項 1 記載の酵素活性作用補助剤。

【請求項 3】 上記有機物、有機化合物が生物残渣である事を特徴とする請求項 1 記載の酵素活性作用補助剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】

本発明は、自然界に存在する微生物群、粘土触媒、酵素及び水等の接触のもとに、有機物又は有機化合物から得られ、生体系、生物系組織の機能を高度且つ良好に改善する作用及び効果を持ち、悪化した生活環境及び生体機能を正常な環境及び機能に修復する事の出来る新規な酵素活性作用補助剤に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、有機物又は有機化合物を自然界に存在する微生物、粘土触媒等を含む触媒に接触させて得られた活性腐殖系農業素材、農業用コンポスト生産時の種菌液、作物肥料又は土壌改善剤に関しては、以下の特許文献に開示されている。

【特許文献 1】 特開平 4-238887 号

【特許文献 2】 特開平 4-265286 号

【0003】

**【発明が解決しようとする課題】**

現在、地球自体もそこに生活する生命体も共に病み、夫々の進化の中で自然に備わった自己処理及び事故修復能力だけではもう回復出来ない状況にまでに至っている。

**【0004】**

その中の一つに、人間が文明の発達と共に大量に自然界に排出する生活系ごみと生活系排出污水がある。

此等二者の内、生活系ごみは焼却や溶融に依って処理されているが、大気中に熱や有害物質を放出し、その残渣や灰等の有害物質は、土壤に埋めて処理せねばならない。

又、人や家畜の排出する汚物、污水は、如何なる現在の技術を以てしても、完全に処理し尽くす事は出来ず、焼却灰や希釈放流水として地中に埋められるか河川に放出される。

**【0005】**

此等放出物は、地球循環システムに依って、湖水、河川水、海水等に溶け込み、自然力では処理出来ない有害な堆積濃縮物として残存堆積し、飲料水、食物等を介して人体に取り込まれ、人体機能メカニズムで分解排出し得ないものは、体内に蓄積し、濃縮されていく。

**【0006】**

上記した様に、人間が排出する生活系ごみや人体及び家畜から排出される汚物、污水は、かつて地球システムが作り出した水や鉱物土壤や微生物群の触媒作用に依って、相互に共生の中で供給し消費し合って、バランスのとれた無害の環境を作り出して来ていたが、昨今の大量のごみ及び排出物は、このバランスを崩して、上記共生消費循環システムを破壊し、人間の基本生理機能までも破壊せんとしているのが実情である。

**【0007】**

此の様な実情に鑑み当業界に於ては、此等の循環システムの正常化を維持するための活性物質及び技術を種々開発し提案してはいるが、満足すべき成果は得られていない。例えば、上記の特開平4-238887号に於

ては、農業廃棄物、畜産廃棄物、微生物活性化触媒（混合構造岩鉱物）、珪藻土等の混合物の熟成体より成る活性腐植系農業素材を提案しており、特開平4-265286号には、高熟成したコンポストから抽出した土壤微生物群及びその代謝物質、及びこの微生物群を活性化させるための混合諸造岩鉱物中のミネラル有効成分を含む水溶液から成る活性土壤微生物群及びその代謝産物濃縮抽出液を夫々提案し、コンポスト生産時の種菌液、作物肥料、又は土壤改善材として利用すると記載している。

#### 【0008】

然しながら、此等の活性腐植系農業用素材は、所期の目的を達成する事が出来たが、環境浄化サイクル能力即ち生活系の廃棄有機物及び排出汚泥、汚水の消滅並びに生体系の生理基本機能の修復の諸機能は備えてはいないのが実情である。従って本発明は、此等従来の技術が未解決の自然が持つ浄化サイクル能力並びに生体系の生理基本機能修復能力に近い機能を備えた酵素活性作用補助材を提供する事を課題とするものである。

#### 【0009】

##### 【課題を解決する為の手段】

##### (A) 人間の基本生理機能と酵素作用

本来、地球環境の浄化には、自然界に存在する微生物、粘土触媒、生体触媒（酵素）及び水等の存在が必要である事、前記2公開特許の技術からも明らかであるが、生命体に関係する現象では、酵素の役割、作用を欠かす事は出来ない。

即ち生命と酵素とは、非常に密接な関係があり、生命の起源に関する問題は、主に酵素のそれに関するものである。

酵素は生体か又は生細胞から直接得られた非常に複雑な系でしか生成されず、個々の酵素分子が形成されるにはあらゆる系の酵素の存在が必要である。

#### 【0010】

此等の酵素は、酵素タンパク質の材料と成るアミノ酸の生成、合成系に関する核酸の各種成分の生成、合成に必要なエネルギーの供給等に必要である。

又、全ての生細胞は多くの同一素材から出来ているのみならず、多くの生体に於ては、同一の複合共同因子、補欠分子剤及び本質的に同一な酵素が見出されている。

しかし生物自体は、必要な多数の酵素の重要成分を合成する事が出来ず、其等を供給してやらねば成らない事が多くある。

#### 【0011】

##### (B) 酵素の反応機構

上記の如く自家生成出来ない酵素は又、化学的手段では困難な化学反応を、高速度でしかも副反応を伴わず引き起こす事が出来る。

此の様な反応は酵素の接触作用によるもので、その反応基質 (S) と酵素 (M) との間には、電子のやり取りが生じ、基質分子中に何らかの張力や分極作用が起こし、此を活性化する。

此の様な作用を及ぼす酵素として酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素等が挙げられる。

#### 【0012】

又、 $\text{Na}^+$ ,  $\text{K}^+$ ,  $\text{Rb}^+$ , . . .  $\text{Ni}^{++}$ ,  $\text{Cr}^{+++}$ ,  $\text{Al}^{+++}$ , 等の1乃至3価の金属陽イオン (15種) は、酵素の活性化に強く作用し、本発明の酵素作用補助剤生成に重要な意義を有している。

此の金属陽イオンに依る特異な活性化は、有機分子を蛋白質に結合させるが、それはPHに強く影響され、不活性金属イオンを置換し、この置換されたイオンを有効な部位に結合出来る様に活性化する。

#### 【0013】

一方、塩素イオン、臭素イオン、炭酸イオン、クエン酸イオン等の陰イオンも酵素の活性化に関与し、此が活性化する時は、一般に非特異的なことが多く、この場合酵素は電解質が無くともある程度の活性を示す。

更に酵素は、陰イオンとの結合に依り、特にアルカリ性PHで活性化する事が判明している。

#### 【0014】

##### (C) 酵素の生成

上記の如く活性化して反応基質を接触する酵素は、生体内では絶え間なく合成されていなければならない、成育に伴って生体の量の増加に比例して必ず増加しなければならない不可欠の物質である。

然しながら成育していない時でも分解して行く酵素もあるので、此を補うため絶えず合成されている必要がある。

此の絶え間ない合成無くして生命は維持出来ない。

従って活性酵素の合成は、蛋白質部分と必要ならば補欠分子族の合成を伴うものでなければならない。

#### 【0015】

然しながら、生体は必要な補欠分子族すべてを合成出来るわけでは無く他から補給せねばならない物もある。更に又、酵素が特殊な金属を含む時は、勿論此等の金属が供給される必要がある。

此等の補欠分子及び特殊金属の補給は、本発明の新素材生成上の必須の条件の一つである。

一方、酵素生成反応に於ては自己接触的で、一度Hイオン等に依り活性化されると自己接触して急速に増加する。

又、酵素の生成は遺伝子と代謝物質に依り制御されている事を考慮する事が必要である。

#### 【0016】

(D) 金属イオンに依る酵素の活性化機構

金属 (E) は酵素の活性中心の不可欠な部分を形成し、酵素 (M) と基質 (S) の両方と結合し、基質を酵素の活性中心に保持するための連結器としても働き得る。

此等因子複合体の結合順序は、以下3通りである。

(1)  $E + M + S = EMS$  (複合体)

(2)  $E + M = EM$  (活性酵素)

$EM + S = EMS$  (複合体)

(3)  $M + S = MS$  (真の基質)

$E + MS = EMS$  (複合体)

然しながら酵素の反応が進行する為には、酵素 (M) と基質 (S) の他に別の物質 (共同因子) が必要な事が多い。

此の共同因子として上記した金属陽イオン及び無機陰イオンが揚げられる。

#### 【0017】

##### 【発明の実施の形態】

上記の如き考察から、本発明の酵素活性作用補助剤においては、その生産原料として生体原形質 (バイオマス) 又は有機残渣有機物、有機化合物に少量の無機質物を含有させた物質 (一般式  $C_a H_b O_c N_d P_e S_f$  で表される) を使用し、此に自然界に存在する生体触媒 (酵素触媒)、粘土触媒、微生物群及び水を加え、常圧且つ嫌気的環境下の特定反応条件下で反応を開始し、間欠曝気環境を経て好気的環境下で不完全酸化させ、その成分及び効果が人間母体の羊水に酷似したアミノ酸構成蛋白質、電解質を含み、生体が生成出来ない必須アミノ酸や生命体の活動に必要な電解質以外の生命体無機物を含有した新物質を取得する事が出来た。

以下に諸種の実験並びに測定データーを参考しつつ本発明の実施例を説明する。

#### 【0018】

##### 【実施例】

少量の無機質物を含有する一般式が  $[C_a H_b O_c N_d P_e S_f]$  (但し  $a \sim f$  は正数) で表されるバイオマス又は生物残渣を、自然界に存在する酵素等の生体触媒、粘土触媒、微生物群及び水依り成る接触媒体の収納された反応槽に、常圧及び  $23.3^{\circ}\text{C} \sim 24.3^{\circ}\text{C}$  の条件下に、一日当たり 4 トンの割合で仕込み、10 日間反応させて、一日あたり 2.4 トン (収率 60%) の生体羊水に似た新規 [酵素活性作用補助剤] を得る事が出来た。

この新資材は、量子的測定の結果



【表1】

【新資材】測定値の考察(★印新資材)

特異的金属イオンは※印で表示する。

【基本要素の検定】①atom(元素)について、

10<sup>3</sup> 10000 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup>《必須元素》 測定値 0 100 200 300 400 500 1000、1×10<sup>4</sup> 2× 3× 4× 5×

【有機元素】

(1)	炭素	C	23524
(2)	酸素	O	49850
(3)	窒素	N	466
(4)	燐	P	946
(5)	硫黄	S	196

【電解質元素】

※(6)	カリウム	K	6460
※(7)	カルシウム	Ca	7780
※(11)	マグネシウム	Mg	18210
(13)	塩素	Cl	422
※(19)	ナトリウム	Na	2125

【微量元素・基本生元素】

※(8)	マンガン	Mn	1020
※(9)	亜鉛	Zn	6410
※(10)	銅	Cu	22260
※(12)	鉄	Fe	6230
※(21)	コバルト	Co	32
(27)	モリブデン	Mo	3530

【微量元素・一般生元素】

※(17)	クロム	Cr	43210
(18)	砒素	As	4460
(20)	珪素	Si	37400
(22)	硼素	B	12270
(32)	錫	Sn	433
(33)	沃素	I	9560

《非必須元素》

(14)	水銀	Hg	444
※(15)	カドミウム	Cd	3330
(16)	パラジウム	Pd	1070
※(23)	アルミニウム	Al	63
(24)	リチウム	Li	532
(25)	ビスマス	Bi	4320
(26)	白金	Pt	186
(28)	銀	Ag	2630
(29)	タンタル	Ta	35520
(30)	タングステン	W	7630
(31)	ゲルマニウム	Ge	17420
(34)	セリウム	Ce	803

セシウム Cs : ルビジウム Rb : ニッケル Ni  
は超微量につき省略してる。

【表 2】

【新資材】測定値の考察(\*印新資材)

《※印は必須アミノ酸》

(2)有機分子amino acidについて、

分類			(100)	(1000)	10000	10 <sup>4</sup>	10 <sup>4</sup>	10 <sup>4</sup>	10 <sup>4</sup>	
【アミノ酸】	略号	測定値	0	10 <sup>2</sup>	10 <sup>3</sup>	1×10 <sup>4</sup>	2X	3X	4X	5X
※①グリシン	G※	622		★						
②アラニン	A	851		★						
※③バリン	V※	753		★						
※④ロイシン	L※	733		★						
※⑤イソロイシン	I※	831		★						
(ヒドロキシル)										
⑥セリン	S	810		★						
※⑦トレオニン	T※	644		★						
(含硫黄体)										
⑧システイン	C	51	★							
[⑧'シスチン c y s、SS ] 73										
(システイン誘導体)										
※⑨メチオニン	M※	85	★							
(カルボン酸)										
⑩アスパラギン酸	D	66	★							
⑪グルタミン酸	E	80	★							
(アミド)										
⑫アスパラギン	N	44	★							
⑬グルタミン	Q	84	★							
(塩基性体)										
※⑭リジン	K※	73	★							
⑮アルギニン	R	77	★							
(脂状体)										
⑯プロリン	P	24330					★			
※⑰フェニルアラニン	F※	43420							★	
⑱チロジン	Y	13250				★				
※⑲トリプトファン	W※	23120					★			
※⑳ヒスチジン	H※	19990					★			

10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>4</sup>  
 1X 2X 3X 4X 5X 6X  
 10000, 20000, 30000, 40000, 50000,

測定値：量子医学の測定値であり、単位は無名数。  
 に示す如く、15種の無機物質(A)と、20種の必須塩基性アミノ酸を含む低

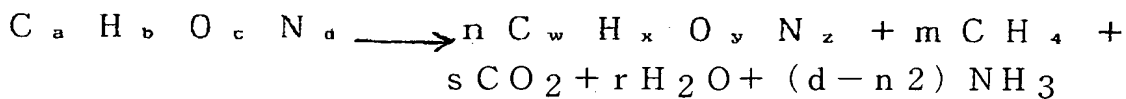
分子有機物質 (B) とを含んでいた。

但し上記 15 種の無機物質のうち  $R_b^+$ 、 $C_s^+$  及び  $N_i^{++}$  の 3 種は、超微量の含量につき【表 1】には記載されていない。

【0019】

又その反応は、7 個の反応槽中で次の 3 段階を経て行われた。  
(表 3 乃至 6 参照)

第一段階：嫌気的環境下での有機化合物  $[C_a H_b O_c N_d]$  の部分的分解 (第 1 槽  $\alpha$ )



$$\text{但し } s = a - n w - m,$$

$$r = c - n y - 2 s$$

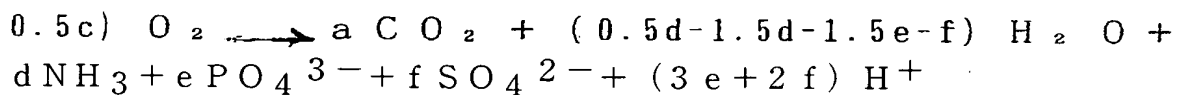
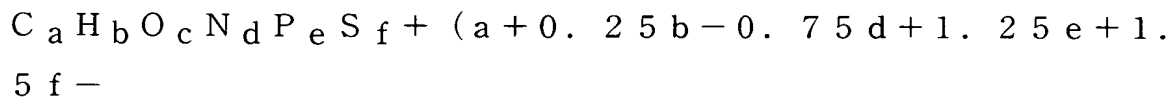
反応条件：[常圧、ORP：-409~-472,

DO：0.22~0.27,

PH：7.61~7.78,

温度：23.2~24.3℃

第二段階：窒素が硝酸まで酸化されない段階 (強制的間欠曝気を行う段階) (第 2 槽  $\beta$ )



反応条件：ORP：-145~20,

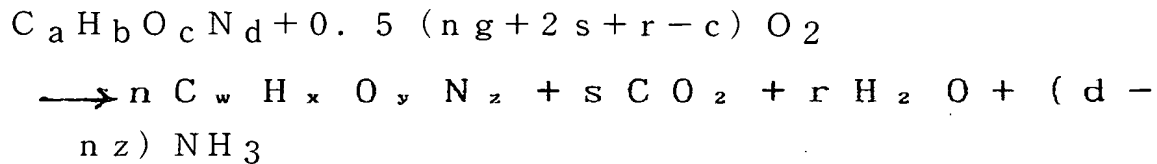
DO : 0.39~0.72

PH : 8.02~8.30

温度 : 26.4~27.9℃

第三段階：好気的環境下での有機化合物の不完全酸化段階 (第 7 槽  $\gamma$ )

(天然有機化合物では、P 及び S は他の元素に比べて少量しか存在しないので部分の計算は無視し得る。)



但し  $r = 0.5 [b - n x - 3 (d - n z)]$ ,

$$s = a - n w$$

反応条件: ORP: 53 ~ 84

DO : 0.30 ~ 0.81

PH : 7.41 ~ 7.65

温度 : 20.0 ~ 21.1℃

### 【0020】

#### 取得された酵素活性作用補助剤（新資材）の構成成分及び性格

斯の如くして得られた新資材は、生体胎児の発育、機能発達に不可欠であると供に、胎児の成熟度やある種の胎児罹患の情報源として欠かさない母体羊水と成分、性状供に酷似しており、その成分は、前記羊水と同様にアミノ酸構成蛋白質、電解質を含み、生体が生成出来ない必須アミノ酸や生命体の活動に必要な電解質以外の生命体無機物を含んでいる。（【表1】及び【表2】参照）

又その性格は、中期以降の母体羊水と同様に、淡黄色でPHが7.41 ~ 7.65の弱アルカリ性を示している。

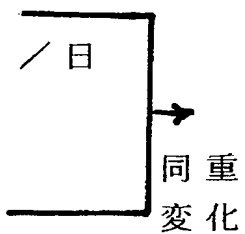
その結果、後述する様に、母体羊水と同様に人体の発育、生体罹患、生理機能の改善作用、生体外有機物及び無機物の分解消化作用等を有していた。

### 【0021】

#### 新資材の利用分野及びその成果

##### （1）生体外有機物、無機物の分解、消化作用

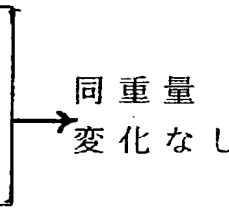
##### （a）新資材に依る家庭用生ごみ処理

<u>従来型資材</u>		<u>本発明の新資材</u>	
基材初期投入量	約 20 L (リットル)	11.5 Kg	
生ごみ投入量	0.7 Kg / 日	0.58 Kg / 日	
累積投入量	210 Kg	22 Kg	
取り出し量	45 L	0 Kg	
基材取り出し時重量	40 Kg	11.5 Kg	
取り出し時期	10ヶ月後	38日後	

以上の実験から新資材に依る生ごみ 22 Kg は、38日間で完全に分解されて 0 Kg と成っているにも関わらず、初期投入基材には全く変化が無かったが、従来型資材では、処理期間 10ヶ月でさえ、完全消化は不可能で、45 L の残渣が残存していた。

### 【0022】

#### (b) 事業様生ごみの新資材に依る処理

基材初期投入量	772 L	
生ごみ投入量	10.83 L / 日	
累積投入量	3424 L	
取り出し量	0 L	
基材取り出し量	772 L	
取り出し時間	316日後	

本実験に於ても基材取り出し量は、処理後に於ても変化なく、投入生ごみは、316日後に完全に消化、分解されていた。

### 【0023】

#### (c) 新資材に依る排水処理

混合浮遊物質濃度 12、000 mg / L の汚水に適量の本発明新資材を加え、此の汚水を 20日間で 95%以上分解することが出来た。此の場合、原水より排水の量が圧倒的に少ない状態が発生した。その結果、此の排水を原水の希釈水として再循環し得るので、此を一切放流する必要がなく、此の処理システムを完全閉鎖式循環型とする事が出来る。

### 【0024】

(2) 新資材の生体系の生理機能改善作用

上記した様に本発明の新資材は、生体母体の羊水に似た性質を備えているので、生理的改善機能も備えている事は明白で、特に生活習慣病、慢性疾患の予防と治癒力の改善、内分泌系、免疫系等の機能低下の改善に効果を有している。

**【0 0 2 5】**(a) 「糖尿病、高血糖症」

症例数 3 0 例：男性 7 0 %；女性 3 0 %

空腹時の血糖値が 2 0 0 ～ 5 0 0 の飲用者（3 0 c c / 日）が、1 ヶ月で 1 2 0 ～ 1 3 0 に降下した。

**【0 0 2 6】**(b) 「糖尿病、視力障害」

（高血糖症の飲用者例）

（1）男性 5 7 才：目が見えにくい症状が有ったが、飲用後 3 0 日で視力が回復した。

（2）男性 6 7 才：失明に近い状態で生きる事への失望感が有ったが、本資材を飲用したところ目が見える様に回復した。

**【0 0 2 7】**

（c）「白内障」女性 7 0 才：直接点眼し 1 0 日間でよく見える様に成った。他に数例有り。

**【0 0 2 8】**

（d）「胃ガン」胃ガンで治療していた男性：抗ガン剤を使用しても頭髪が抜ける事がなかった。

又、余命半年と宣告された患者が、6 年間延命出来た。

**【0 0 2 9】**

（e）「大腸ポリープ」大腸にポリープが発見された男性（4 3 才）は、飲用 6 日間後、ポリープの消失が認められた。同様な症例が 1 0 例程あった。

**【0 0 3 0】**

(f) [悪性リンパ腫] 女性 4 2 才：発病後放射線治療を受けずに 3 ヶ月程飲用して健康体に回復した。血液検査の結果も異常が無かった。

【0 0 3 1】

(g) [白血病] 女性 2 6 才：治療を受けていて余命半年と言われていたが、一日 3 0 c c を飲用し続け、6 年間延命した。

【0 0 3 2】

(h) [c 型肝炎] 女性 4 7 才：長期通院でも症状の改善が見られなかったが、飲用 3 ヶ月程で血液検査の結果、改善が見られた。

【0 0 3 3】

(i) [心臓病] 男性 5 0 才：左の冠状動脈に異状があったが、飲用に依って健康が回復し、元気で働ける様になった。

【0 0 3 4】

(j) [胆石] 男性 6 0 才：手術をする必要があったが、胆石が溶解して、その必要が無くなった。他にも数症例が有る。

【0 0 3 5】

(k) [リウマチ] 男性 6 5 才：歩行が困難で有ったが、一日 3 0 c c の飲用を 1 ヶ月続けた結果、楽に歩ける様になった。

【0 0 3 6】

(l) [皮膚修復] 新生児の「へその緒」が切れた跡がジクジクと乾燥しない状態であったが、当資材のガーゼ湿布で奇麗に完治した。

【0 0 3 7】

(m) [重度の切り傷の修復] 男性 5 0 才、同 3 5 才：骨が見える程の深い傷が、当資材のガーゼ湿布で痛みが殆ど取れ、5 日間程で傷口が修復した。

【0 0 3 8】

(n) [打ち身、捻挫の修復] 患部に当資材のガーゼ湿布で、その部分のみがチアノーゼが出来ず痛みが消えた。

同様な事例が 2 0 例程有る。

【0 0 3 9】

(o) [重度の水虫の修復] 男性 5 1 才：

風呂 (2 0 0 L に約 1 0 0 c c) に当資材を入れて入浴し、重度の水虫が完治した。

【0 0 4 0】

【発明の効果】

以上の如き性能及び作用を有する本発明の新資材即ち酵素活性作用補助材は、生産原料が生活並びに事業生ごみ等の有機物、有機化合物で、その生成装置も、自然界に存在する生体触媒、微生物、粘土触媒、水等を収納する複数の接触槽のみであるから、その製造が簡単且つ安価で有ると同時に、生成された新資材が、生体生理機構に必須な成分を高レベルで含有する生体母体の羊水に酷似した物質であるので、農業、畜産廃棄物、生活並びに事業生ごみ、汚水、泥液等を分解、消化し得ると共に反応残渣及び排水を生成せず、従来の如く此等の残渣の焼却、その灰分の埋め立て、及び排水の処理等の作業が省略され、その反応系を完全閉鎖システムとする事が出来る。

【0 0 4 1】

更に又、生体系に対しては内分泌系、免疫系等の機能低下の改善並びに生活習慣病、慢性疾患等の予防と治癒力の改善作用が顕著なので、医薬品として極めて有効な新規資材物質を提供する事も出来る。



表 3

槽順変化 (PH)

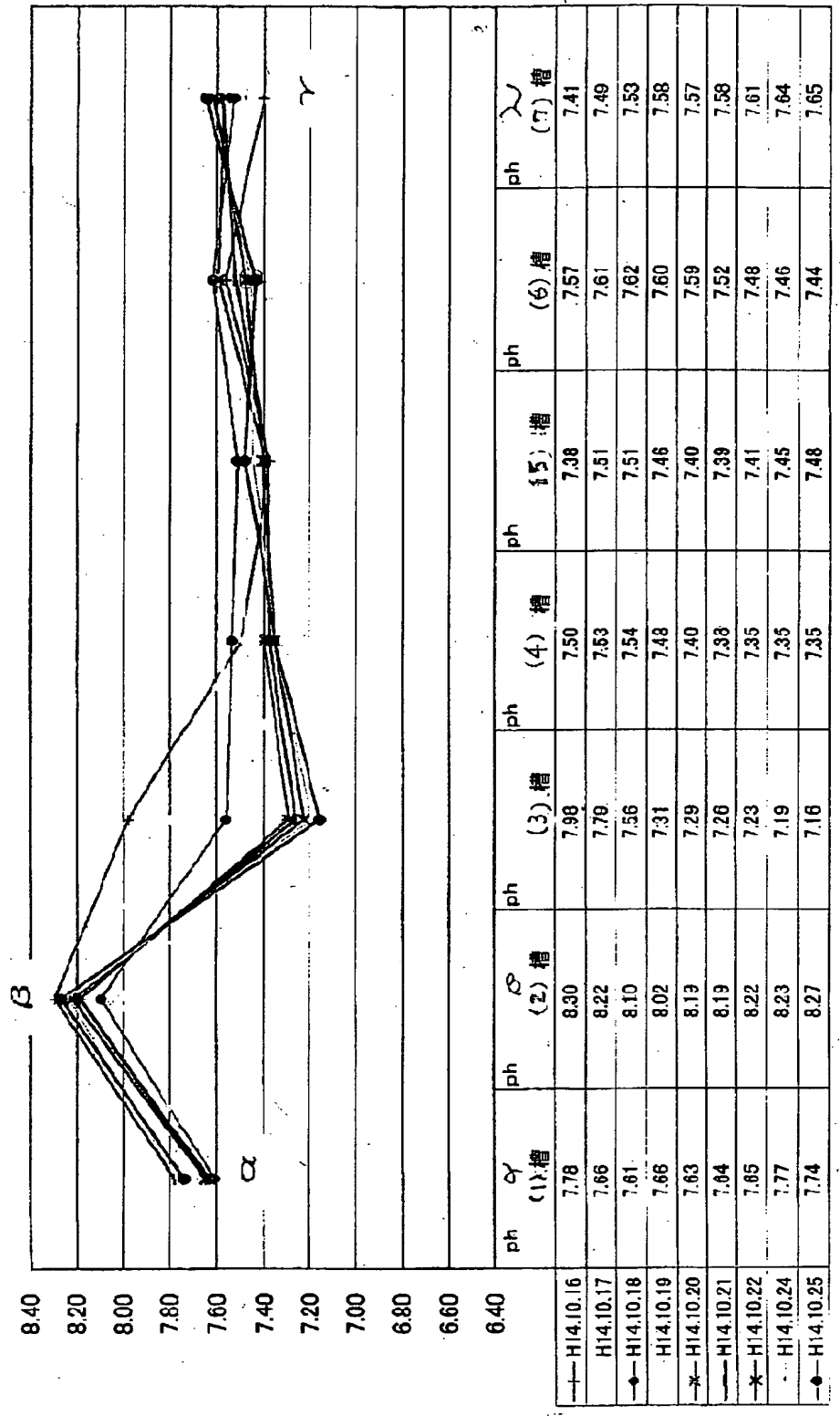


表 4

槽順変化 (ORP)

(還元環境元胞)

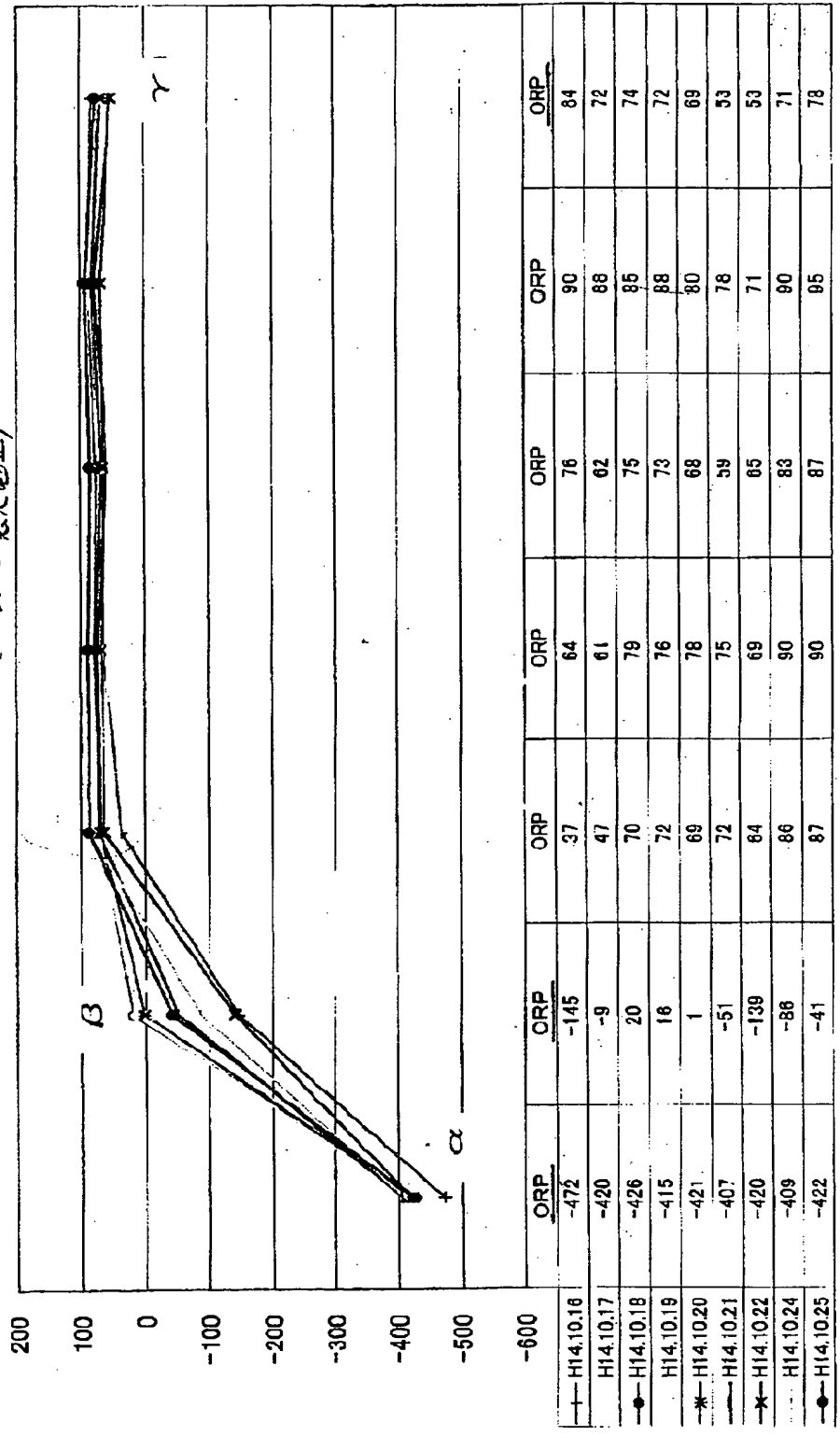


表 51

槽順変化 [DO] (溶存酸素濃度)

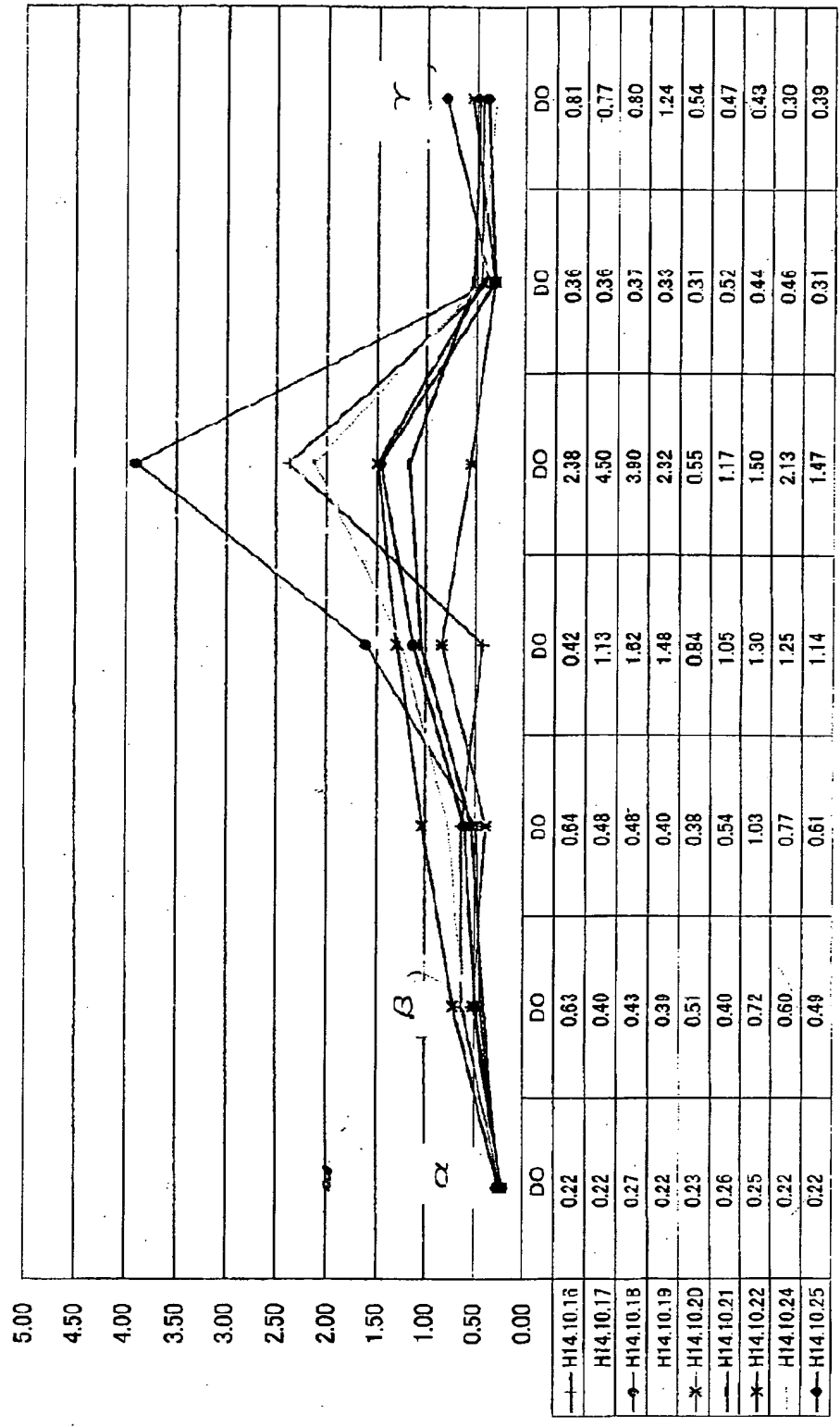
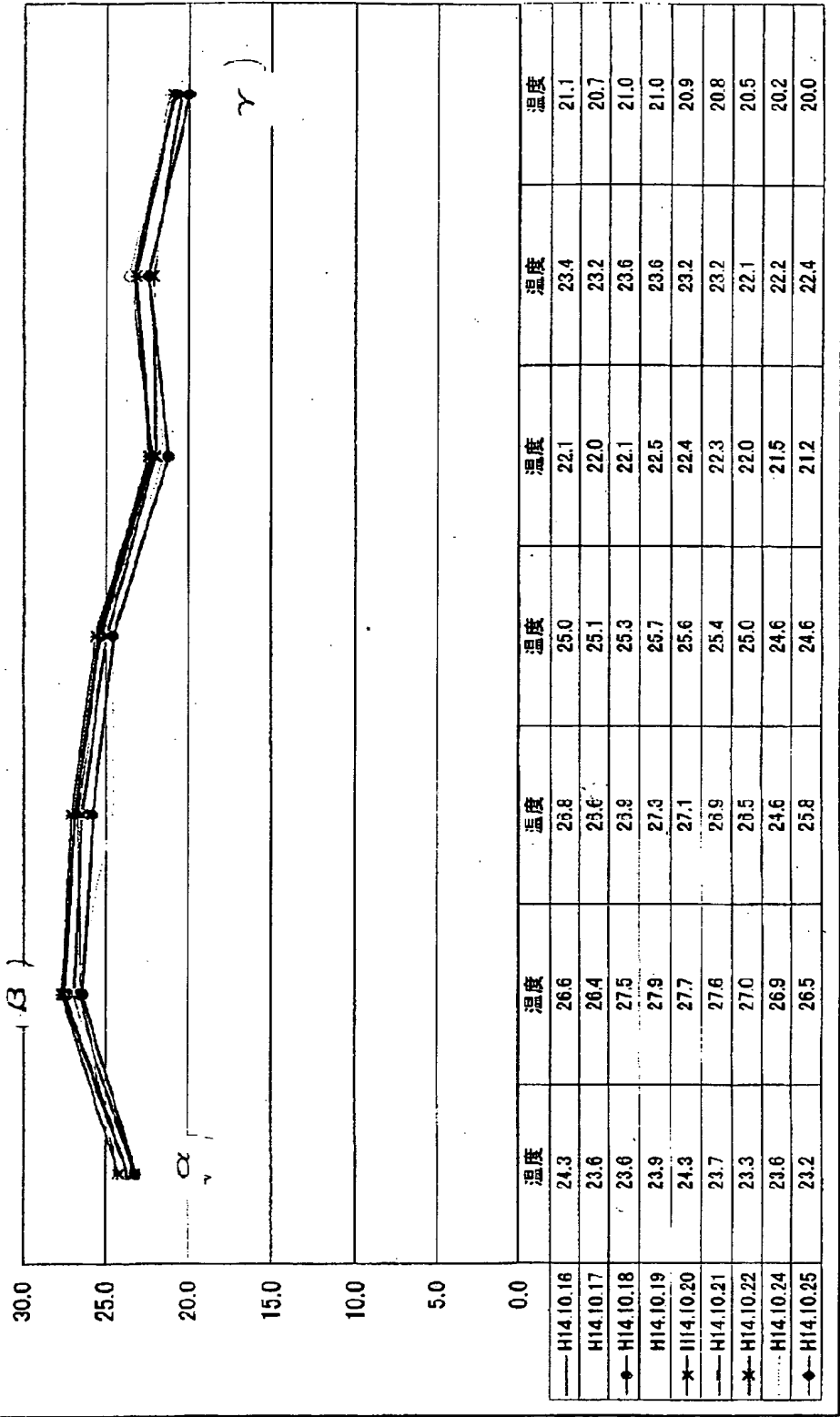


表 6

槽順変化 [温度]



【書類名】 要約書

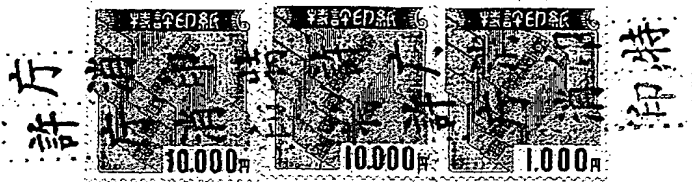
【要約】

【課題】

本発明は、少量の無機質物を含有する有機物、有機化合物を、自然界に存在する酵素、粘土触媒、微生物群及び水より成る媒体と接触させて生成され、生活系環境及び生体系、生物系組織の機能を高度且つ良好に改善して、悪化した生活環境及び生体を改善し、修復し得る有効な新資材物質を提供する事を課題とする。

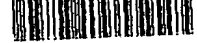
【解決手段】

上記課題を解決するために本発明の新資材に於ては、少量の無機質物を含有する有機物、有機化合物を、上記自然界に存在する諸触媒の接触作用に依り、酵素類の必須賦活物質たる特異的金属陽イオン15種と、生物組成に補給されねばならない必須塩基性アミノ酸を含む低分子有機物20種とを含有する母体羊水に酷似した新酵素活性作用補助剤に変化させ、この物質の作用に依り、有機物、有機化合物を含む生活ごみを分解－消化し、此等ごみに依って悪化した生活環境を整え、他方ではこれを生物、生体に投与し、損傷し悪化した組織を保護し修復して、正常な組織に回復させ得る様な機能を付与した事を特徴とする。



印紙21,000円

(B)20300190150



【書類名】

特許願

【整理番号】

PMH15-0001

平成15年1月30日差出

【提出日】

平成15年1月 日

【あて先】

特許庁長官 太田 信一郎 殿

【発明の名称】

酵素活性作用補助剤

【請求項の数】

3

【発明者】

【住所】

東京都足立区竹ノ塚5-1-18

ワイエスビル 301

【氏名】

松本 幸男



【特許出願人】

【郵便番号】

121-0813

【住所】

東京都足立区竹ノ塚5-1-18

ワイエスビル 301

【氏名】

松本 幸男



未照合

【提出物件の目録】

【物件名】

明細書

1

【物件名】

要約書

1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 0 6 0 6 5 9
受付番号	2 0 3 0 0 1 9 0 1 5 0
書類名	特許願
担当官	金井 邦仁 3 0 7 2
作成日	平成 1 5 年 3 月 2 5 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成15年 1月30日

次頁無

特願 2003-060659

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[503089571]

1. 変更年月日

2003年 1月30日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都足立区竹ノ塚5-1-18 ワイエスビル 301

氏 名

松本 幸男